

愛知県立津島北高等学校いじめ防止基本方針

I いじめの防止についての基本的な考え方

本校は、あらゆる教育活動を通して、生徒の豊かな心を育み、夢や希望がかなう教育を推進している。具体的には、生徒が教職員や周囲の友人と信頼できる関係の中で、安心・安全に生活し、生徒一人一人が集団の一員としての自覚と自信を深めることができるよう、学習や部活動、体験活動等を通して人間的に成長できる取組の充実を図る。

いじめは、いじめられた生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であり、また、どの生徒でも被害者にも加害者にもなりうるという事実を踏まえ、教職員は、日頃から早期発見・早期対応に努め、家庭や専門機関と連携を図りながら、学校全体で組織的に指導に当たる。

II いじめ防止対策組織について

いじめに関する問題を、特定の教員が抱え込むことのないよう、組織として対応するために、「いじめ対策委員会」を設置する。

(1) 「いじめ対策委員会」について

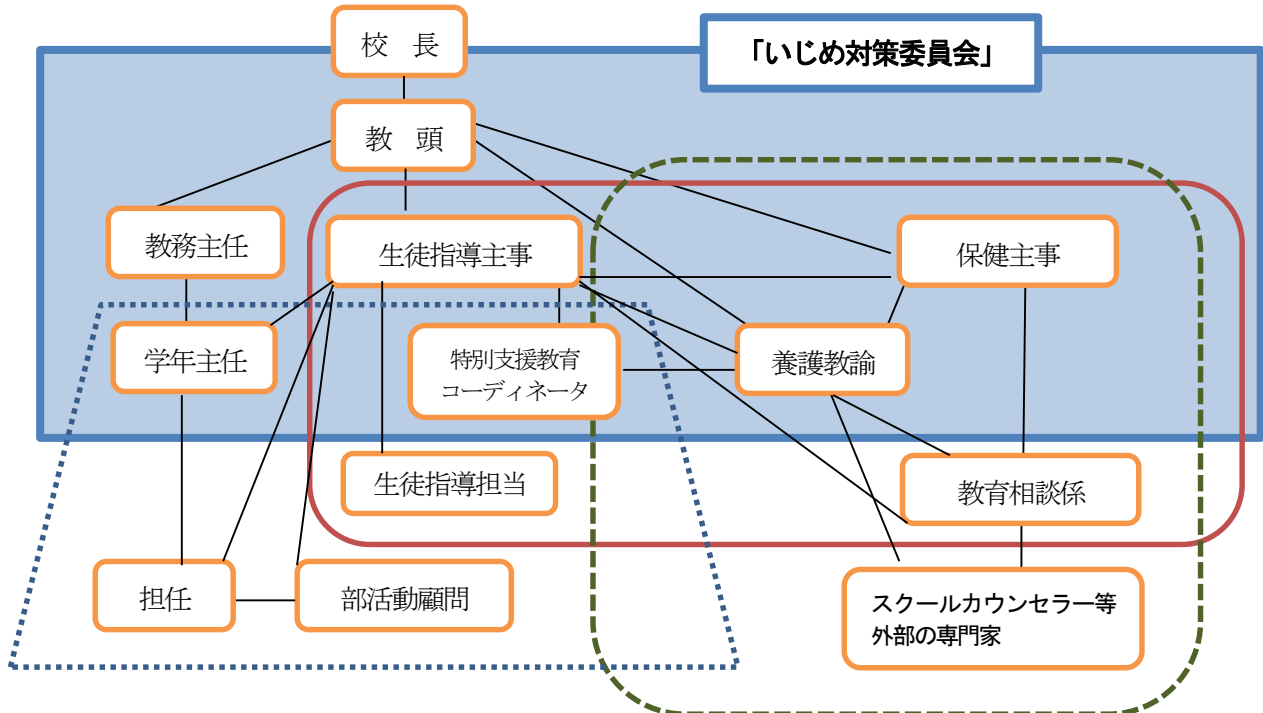
ア 委員

校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、保健主事、教育相談係、学年主任、特別支援コーディネータ、養護教諭、
(必要に応じて、正副担任やスクールカウンセラー等の専門家を加える。)

イ 指導・支援チーム

委員会が、事案に応じて、適切な教員等をメンバーとする指導・支援チームを決定し、実際の対応を行わせる。いじめの防止、早期発見、早期対応に当たっては、事案によって関係の深い教職員を追加するなど、適切なメンバーで対応できるよう柔軟にチームを組んで対応する。

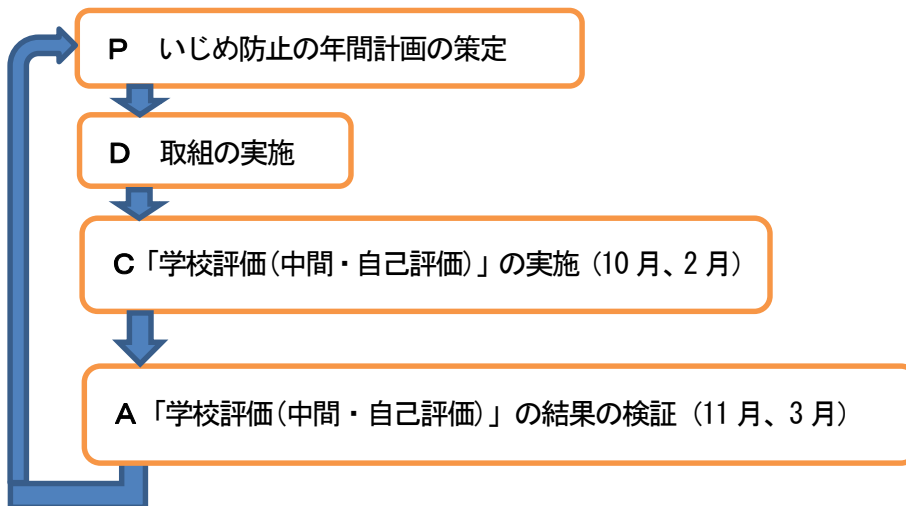
【組織図】



※ 、 、 は、指導・支援チームの例。事案によってメンバーを柔軟に変える。必要に応じて外部の専門家と連携をとる。

(2) 「いじめ対策委員会」の役割や機能等

ア 取組の検証（PDCAサイクル）



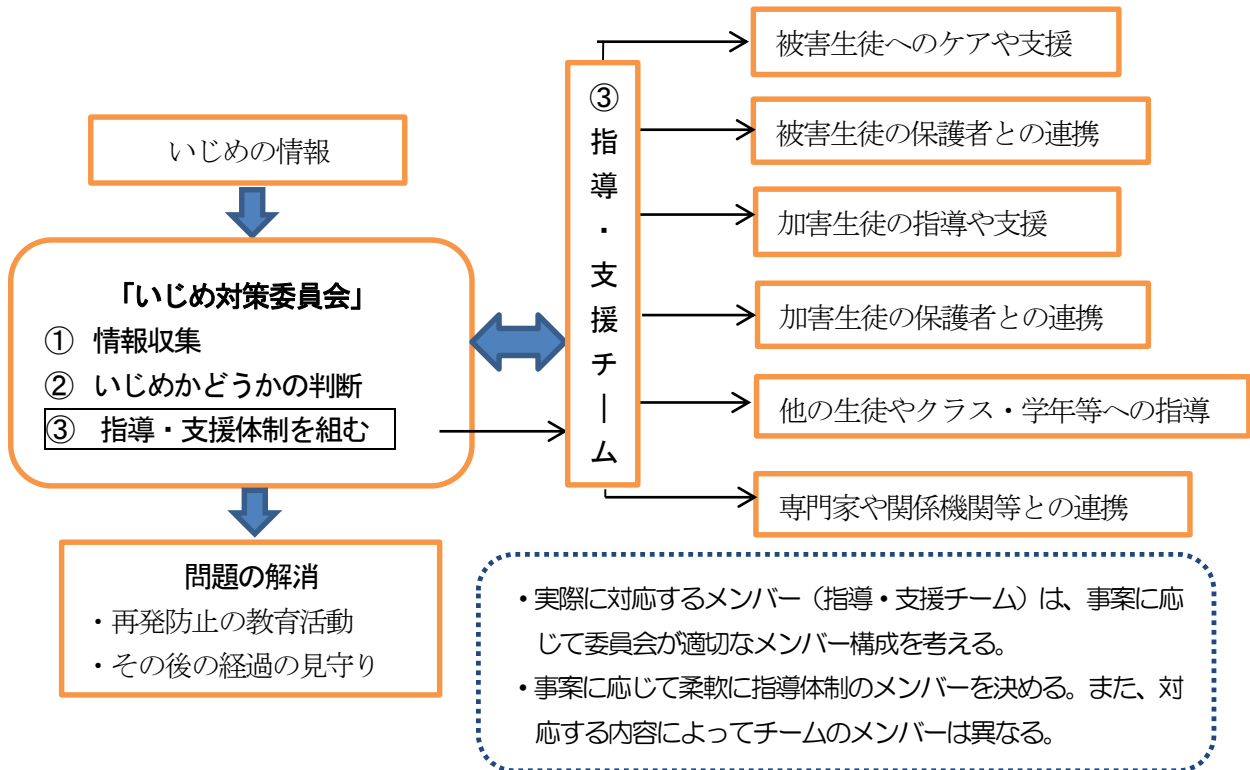
イ 教職員への共通理解と意識啓発

- ・年度初めの職員会議で「いじめ防止基本方針」の周知と確認を行う。
- ・「いじめ対策委員会」で検討した内容を職員会議等で報告する。
- ・必要に応じていじめをテーマとした現職研修等を実施し、教職員全員の問題意識の共有化を図る。

ウ 児童生徒や保護者、地域に対する情報発信と意識啓発、意見聴取

「いじめ防止基本方針」を、学校経営案及び学校のホームページに掲載する。

エ いじめに対する措置（いじめ事案への対応）



オ 重大事態への対応

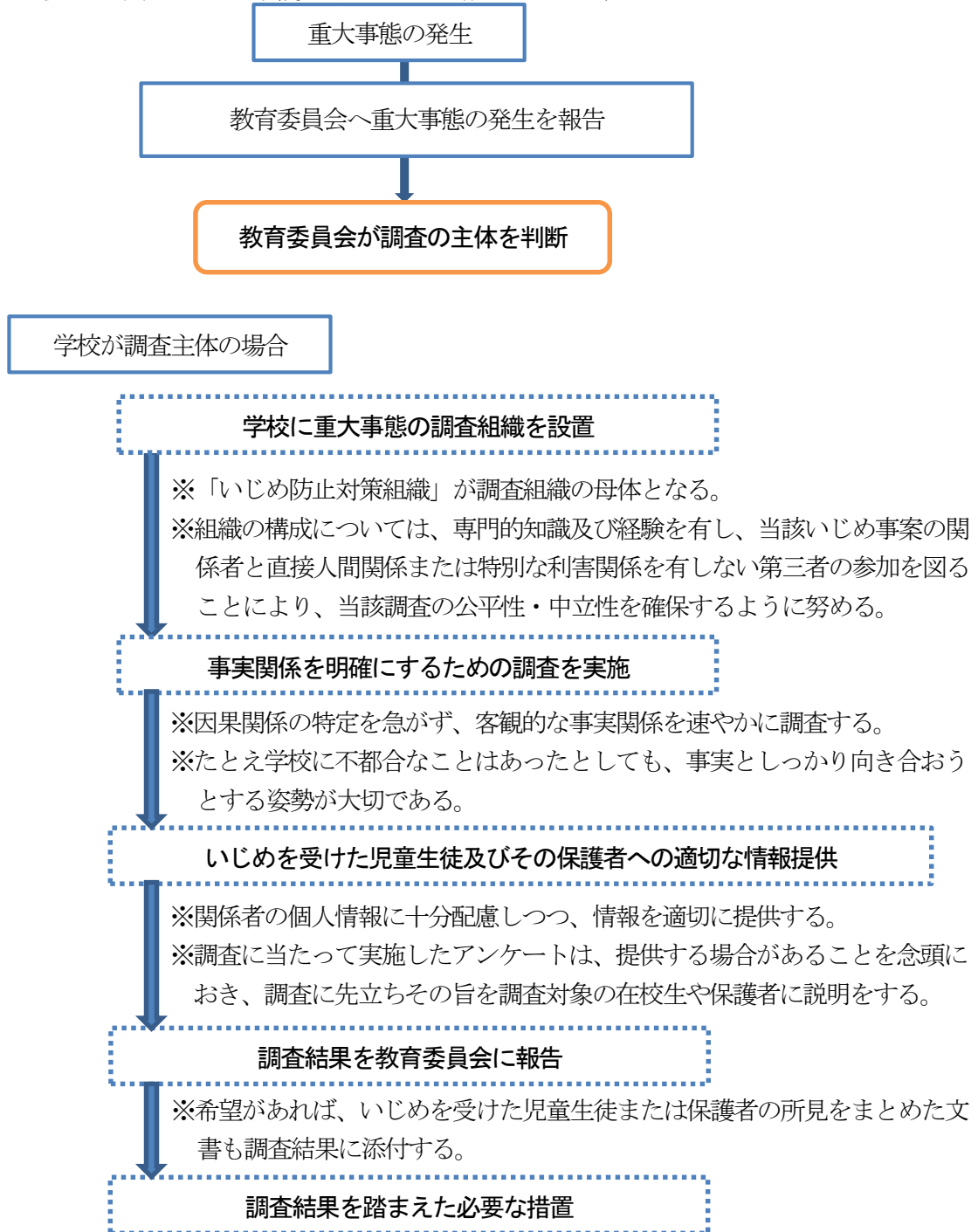
重大事態が生じた場合は、速やかに教育委員会に報告し、文部科学省「重大事態対応フロー図（学校用）」に基づいて対応する。

学校が調査を実施する場合は、「いじめ対策委員会」が調査の母体となり、事案に応じて適切な専門家を加えるなどして対応する。

【文部科学省「重大事態対応フロー図（学校用）」より

(注) 重大事態とは（「いじめ防止対策推進法」第28条）

- 一 いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき
- 二 いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間（年間30日を目安とする。）学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき



Ⅲ いじめの防止等に関する具体的な取組について

	学校の方針	学校としての取組	保護者・地域との連携
未然防止	<p>ア 現職研修等を活用し、全ての教職員がいじめに対する共通理解をもち、適切に対応できる力を養う。</p> <p>イ 教育活動全体を通して、道徳教育・人権教育の充実、体験活動・就業体験の推進を図る。</p> <p>ウ 公開授業を積極的に行い、授業改善を進め、分かりやすい授業づくりに努める。</p> <p>エ 体罰はもとより教職員の言動がいじめを助長することのないよう、指導の在り方に細心の注意を払う。</p>	<p>○クレペリン検査【生徒指導部】</p> <p>○相談室やスクールカウンセラーの周知【保健厚生部】</p> <p>○わかる授業を目指した「授業改善」→公開授業週間を設定(10月)【教務部】</p> <p>○個人面談の実施【全学年4月】</p> <p>○健康調査の実施【保健厚生部】</p> <p>○生活実態調査の実施【進路指導部】</p> <p>○人権週間での取組 →人権講話、情報モラル教育(12月)【生徒指導部】</p> <p>○1年生オリエンテーション合宿(4月)</p> <p>○保健講話【保健厚生部】</p> <p>○体育祭、文化祭【生徒会】</p>	<p>○公開授業の実施(5月、10月)</p> <p>○学校評議員への学校行事・授業の公開</p> <p>○生徒・教職員と協同したボランティア活動等の実施(藤まつり、天王祭り、遊涼みフェスタ、グループホーム森津訪問、商業科主催3年生高齢者パソコン教室等)</p>
早期発見	<p>ア 教職員は、生徒のささいな兆候から、いじめを積極的に認知するように努める。</p> <p>イ いじめを認知またはいじめの疑いがある場合は、速やかに「いじめ対策委員会」に報告をし、組織的に対応する。</p> <p>ウ 定期的な「いじめアンケート調査」(年3回)の実施や教育相談の充実を図る。</p>	<p>○相談活動の周知(「相談だより」の発行…毎月1回)【保健厚生部】</p> <p>○「いじめアンケート」の実施(年3回…6月、11月、2月)【生徒指導部】</p>	<p>○保護者会(7月、12月)</p>
いじめに対する措置	<p>ア いじめの発見・通報を受けたら「いじめ対策委員会」で組織的に対応する。</p> <p>イ 被害生徒を守り通すという姿勢で対応する。</p> <p>ウ 加害生徒には教育的配慮のもと、毅然とした姿勢で指導や支援を行う。</p> <p>エ 教職員の共通理解、保護者の協力、スクールカウンセラーや警察署等、専門家や関係機関等との連携のもとで取り組む。</p>	<p>○いじめ事案に対して組織的に対応【「いじめ対策委員会」・生徒指導部・保健厚生部】</p>	

	<p>オ いじめが起きた集団へのはたらきかけを行い、いじめを見逃さない、生み出さない集団づくりを行う。</p> <p>カ ネット上のいじめへの対応については、必要に応じて警察署や法務局等とも連携して行う。また、日頃から情報モラル教育の充実を図る。</p>		
<p>点検・検証・見直し</p>		<p>○学校評価の評価項目とし、「中間評価」(10月)及び「自己評価」(2月)を行い、「いじめ・不登校対策委員会」でその結果を検証する。</p>	<p>○学校関係者評価委員会(3月実施)で「自己評価」の評価を行う。</p>